

第一回寄合い(ワークショップ)開催報告

1 集落元気づくりのための寄合い(ワークショップ)の開催概要

○平成21年8月～10月にかけて、宮崎県臼杵郡椎葉村及び鹿児島県大島郡瀬戸内町にて集落元気づくりのための基礎調査及び第一回集落元気づくりのための寄合い(1回)を開催した。

集落元気づくりのための事前基礎調査

集落の現況を把握するための住民・他出者基礎調査(お盆・旧盆)

- ◆ H21年8月13日～14日 瀧春山集落(椎葉村) 住民13名 世帯数7世帯 他出14名
- ◆ H21年9月2日～4日 阿多地集落(瀬戸内町) 住民5名 世帯数5世帯 他出5名
- ◆ H21年9月2日～4日 知之浦集落(瀬戸内町) 住民12名 世帯数6世帯 他出6名



住民一人一人への聞き取り調査



他出者団体への聞き取り調査
(寄合いへの参加要請)

第1回寄合い 現状の問題を見てみよう

世帯毎の家族構成・後継者(他出者含む)や集落の資源を把握することで集落の現状を共有(参加者数33名)

- ◆ 平成21年10月13日 瀧春山集落(椎葉村) 住民7名6世帯 他出1名1世帯
- ◆ 平成21年10月17日 阿多地集落(瀬戸内町) 住民7名6世帯 他出2名2世帯
- ◆ 平成21年10月18日 知之浦集落(瀬戸内町) 住民10名7世帯 6名6世帯

平成21年12月上旬から中旬にかけて開催予定

第2回寄合い 集落の将来について考えてみよう

将来の集落の姿を考え、集落の問題・課題の抽出と取組の話し合い

- ◆ 平成21年12月7日(月) 瀧春山集落(椎葉村)
- ◆ 平成21年12月12日(土) 知之浦集落(瀬戸内町)
- ◆ 平成21年12月13日(日) 阿多地集落(瀬戸内町)



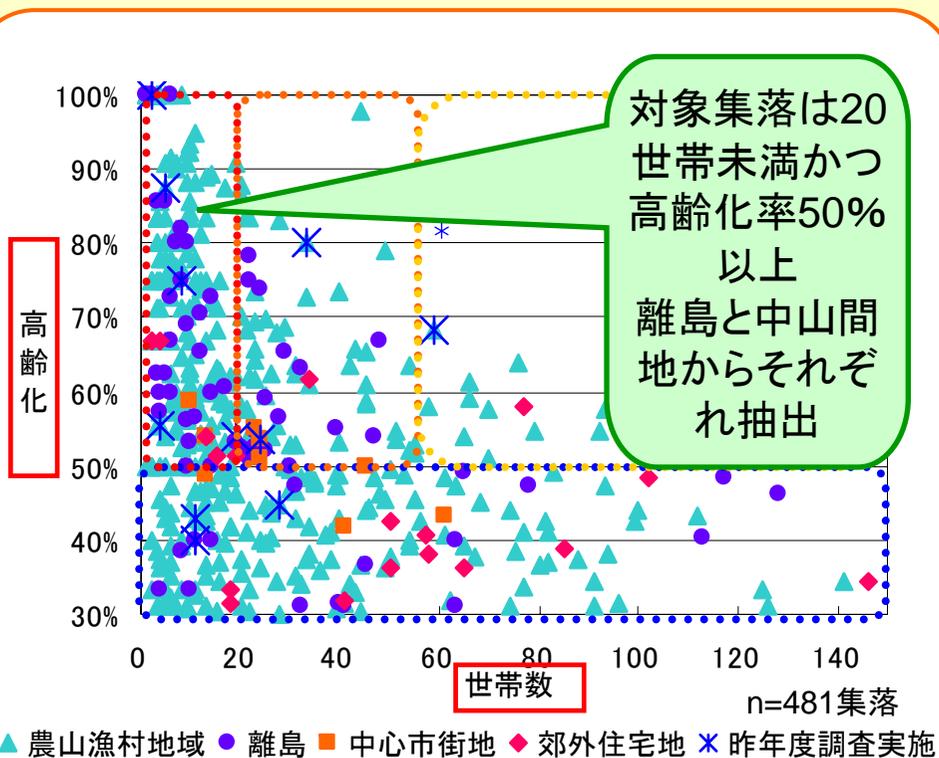
寄合いによる現況の共有
(問題意識の共有)

2 集落元気づくりのための寄合い

寄合い対象集落の抽出（第1回検討委員会）

①対象集落の抽出

世帯規模・高齢化実態から、厳しい条件にある集落を中山間地及び離島から3集落を抽出。（第1回委員会）



自治体実感
存続が危ぶまれる集落
(平成19年度アンケート調査)

客観的指標
高齢化率: 概ね30%以上
世帯数: 概ね150世帯以下

**典型的な
小規模・高齢化集落**
(アンケート調査対象集落)
481集落(135自治体)

結果

- 集落元気づくりを実現する上で、厳しい条件（小規模、高齢化、集落元気づくりへの取組意向がない、生活中心都市までの時間距離が30分以上）である集落を選定した。

課題等

- 集落人口が少なく、かつ高齢化も進んでいる集落であることから、集落元気づくりを担う人材が少ないことが想定され、外部支援を前提としたきっかけづくりが必要である。
- 外部支援の可能性把握のため、他出者の状況も把握するための基礎調査が必要である。
- 平成20年度調査で行った集落代表者アンケートにおける結果が住民全体の意向であるのか？小規模集落であるだけに集落全員の意向把握を行う必要がある。

2 集落元気づくりのための寄合い

【第0段階】事前準備（参加の場の創出）（その1）

①対象集落の基礎調査

○集落の実態や住民意向や集落元気づくりの担い手（キーマン）を把握するための基礎調査を行った。



全住民及びお墓参り等で帰省した他出者へアンケート調査を依頼（今回の事前調査は、他出者の帰省時期とした）

在住の親戚はいないが定期的に集落に帰るS氏（知之浦）

○集落の地理的特徴、集落資源や不安について把握するための現地調査及び自治体・区長へ聞き取り調査を実施した。



・集会所の利用状況や高齢者の寄合い（WS）への送迎の必要性を把握



・よそ者の視点から、集落資源を評価する。（瀧春山で20年続いている無人販売所）

結果

- 他出者の動向を把握するため、お盆の時期（瀬戸内町は旧盆である9月）に訪問調査を（アンケート）行を行うことにより、他出者の帰省動向や集落元気づくりの担い手（特に他出団体）を把握出来た。
- 全世帯・全住民を対象とした他、他出された家族の他出先住所も教えていただき、他出者アンケート（訪問及び郵送）が実施できた。

【代表的な寄合い（WS）の感想】

- ・現状と課題の分析をきっかけに、住民自らが日頃認識していない居住地について再考できた。（瀧春山 40才男性）
- ・他出者が集落のことで心配していることをうれしく思えた。（瀧春山 60代男性）

結果

- 寄合い（WS）を開催する準備として、送迎の必要性や主な交通手段を把握し、寄合いへの参加者を確保した。
- 外部者（よそ者）から見た魅力的な資源や集落生活を見た上での不安を調査し、伝えることで、集落住民の資源の再認識につながった。
- 集落の家屋の配置が密集型か散居型か把握できたほか、集落で定期的に行われている寄合いの頻度が確認できた。

【代表的な寄合い（WS）の感想】

- ・足下の資源等再確認できた。（瀧春山 60代男性）

課題等

- 世帯・個人の詳細な実態調査には1世帯1時間～2時間の時間を要するため、設問の絞り込みが必要である。
- 個人情報に係わる住所等を把握するため、住民に不信感をもたれる。（地元自治体・区長の協力が不可欠）

2 集落元気づくりのための寄合い

【第0段階】事前準備（参加の場の創出）（その2）

②集落支援団体基礎調査及び意向把握

○集落への支援主体となることが想定される他出者団体、地元自治体、周辺集落のキーマンを把握する。



他出者の親睦会に対し、寄合いとは別に会合を開き、集落元気づくりへの支援意向を把握した。(知之浦集落、阿多地集落)

○周辺集落と連携した取組実態を把握する。
(集落行事が既に統合されて実施されている場合もあるため)



・運動会は3集落(小学校区)が既に合同で開催している。但しどの集落もほとんどが他出者が参加(阿多地集落)



・寄合いにおいて周辺集落(三浦)代表者も参加することで、お互いの行事情報を共有化

結果

○集落居住者以外にも、定期的に集落を訪れ、集落維持に係わる取組を行っている親睦会の活動実態(年一度の親睦会を開催等)を詳細に把握できたほか、親睦会に集落元気づくりのための寄合いへ参加していただけた。

【代表的な寄合い(WS)の感想】

・集落維持に関わる作業を古仁屋の郷友会(他出者の親睦会)と一緒にやれるのではないかと思った。(知之浦 他出者)

結果

○周辺集落の代表者にとっても同様な悩みを感じていることが多いため、寄合いへの参加を通じ、その悩みを共有し、お互いの連携が深まる可能性が生じた。

【代表的な寄合い(WS)の感想】

・三浦(周辺集落)から来たのですが、参加者の意見を聞きながら、それに対し具体的な話を進めていくのが良いと思いました。(知之浦 周辺集落男性)

課題等

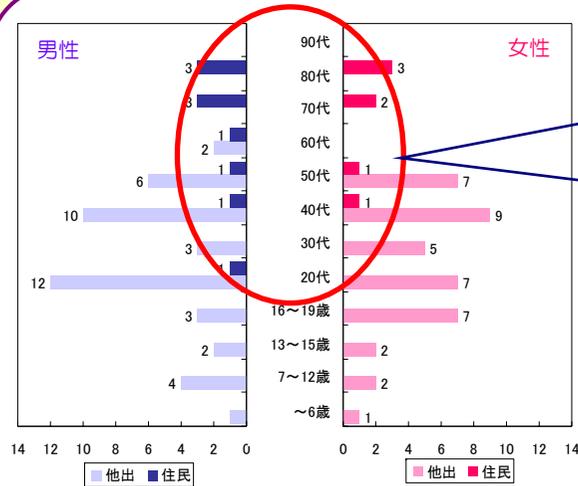
○他出者の他出先や周辺集落においても各種行事が行われており、これらの行事日程・内容の重複は避ける。
○集落元気づくりを実施する上で、支援が可能な外部支援者誰なのかを見極める必要がある(キーマンの発掘)
○どのような支援が可能なのかを寄合いを通じてお互いが確認する必要がある。

2 集落元気づくりのための寄合い

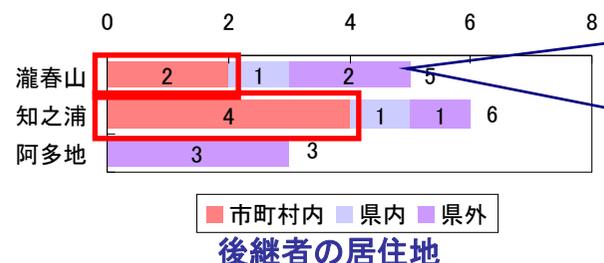
【第0段階】事前準備（参加の場の創出）（その3）

③全世帯・住民及び他出者アンケート調査

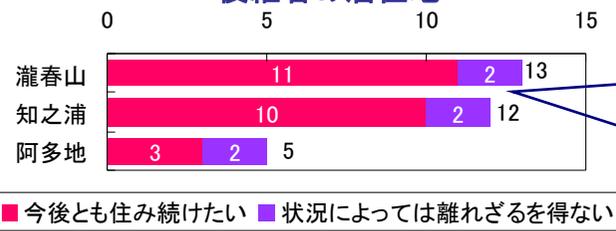
○統計には表れない集落の世代構成(他出者含む)や他出の実態、集落元気づくりへの取組意欲を把握。



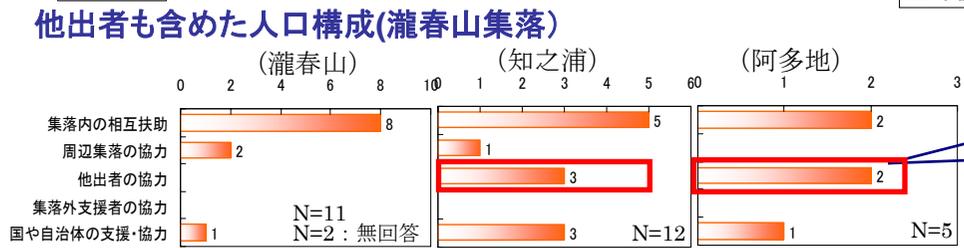
住民-他出者の人口ピラミッドの作成により集落の高齢化と他出の実態を実感する。



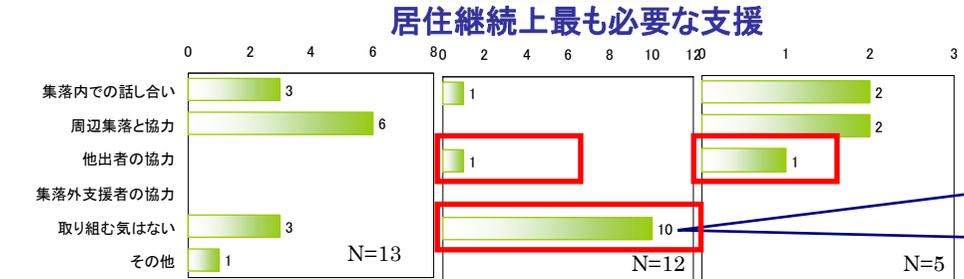
集落支援が行える他出者が近くに居住していることは重要



居住継続意志はいずれの集落も高い



居住継続において、集落内の相互扶助が最も重要である一方で、離島の集落では他出者への協力要望も高い



しかし、集落元気づくりへの取組については、自集落内あるいは周辺集落との協力が多く、遠慮からか、他出者への期待は低い。また、取り組む気がないと住民の大半が回答した集落もあった。

2 集落元気づくりのための寄合い

【第1段階】気付きの誘発（第1回寄合い）（その1）

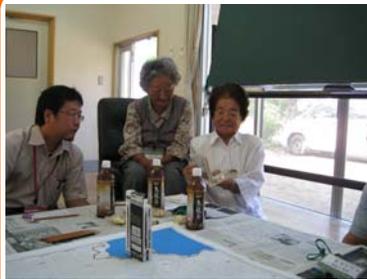
①話し合いの方法

- 発言のしやすさに留意し、地元自治体、周辺集落代表者、他出者にも話し合いに参加していただいた。



・集落出身者(他出者)で自治体に勤務されている方や自治体の集落担当部局の方にも参加していただき、持続的な取組へのつながる配慮を行った。
写真 町職員兼他出者のI氏(阿多地)

- 高齢者の発言を引き出すため、昔の思い出話から集落資源を導き出した。



・昔行っていた春祭り、農業の結いバレ、キビナゴの追い込み漁など、集落総出で行っていたことは何かあるのか？また遠かった学校への通学の思い出について語り合っていた。
写真 昔の写真も使った思い出に話は盛り上がる(阿多地)

- 長時間の寄り合いにおいて高齢者の方も話し合いに参加できるような配慮を行った(椅子の手配、代筆者の手配)



・寄り合い参加の高齢者の方には椅子を手配するほか、サポート要員が個別に意見を把握した(知之浦集落)

結果

- 集落元気づくりへの取組において、他出者への期待が高まった。また、他出者も集落の支援要望を把握できた。
- 自由に話し合いができる環境を整えたことにより、自由闊達な議論がなされた。
- 集落が元気であった頃の行事等を回顧していただくことで、集落の伝統行事や習慣が若年世帯へも伝えられた。

【代表的な寄合い(WS)の感想】

- ・歳を取った私でも良くわかりやすかったので、若返りました(阿多地集落 80才女性)
- ・高齢者集落を元気にしていこうとする取組がすごくわかりやすく、感動すら感じた(知之浦集落 他出者男性)
- ・普段聞けなかった集落の人の意見や、自分の知らない昔の出来事が確認された。(阿多地集落 50代男性)
- ・全員そろって話し合いが出来たことがうれしかった。(知之浦 80代男性)
- ・自らの集落の良さや課題を議論していく中で、高齢化は進んでいるが、住民のパワーはまだあるように感じた。昔話をきっかけに高齢者が生き生きとしているように感じた。

課題等

- サポートなしでは話し合いが困難なケースも見受けられたため、それらサポートのあり方についても配慮が必要である。

【代表的な寄合い(WS)の感想】

- ・耳が不自由ですが、参加させてもらっただけでもありがたいと思います。(阿多地集落 80才女性)
- ・もう少しゆっくり話した方が良い(知之浦 他出者)

2 集落元気づくりのための寄合い

【第1段階】気付きの誘発（第1回寄合い）（その2）

②集落現況マップの取りまとめ

○住民と外部参加者の共同作業により、集落の思い出と暮らしの不安と資源を地図に記載。

瀧春山集落



出された主なキーワード

不安

- ・一次医療しかなく不安
- ・鳥獣被害が集落全体に及んでいる
- ・高齢化の進行が心配

資源

- ・今はやめた春祭り・秋祭り、ひえつき節
- ・20年前にスタートした無人販売所
- ・春の桜、秋の紅葉、滝、鍾乳洞

思い出

- ・地区全体の春祭り、氏神様の祭り、山神様の祭り
- ・昔は獣道を使って通学していた（片道2時間半）

知之浦集落



出された主なキーワード

不安

- ・高齢で集落維持管理作業が難しくなってきた
- ・道路の寸断より海が荒れる方が心配（移動は船に依存）
- ・耕作放棄地が増えるとハブが出てくる

資源

- ・集落中心にある松の大木
- ・全世帯船所有

思い出

- ・瀬戸内町の船こぎレースは毎年上位入賞していた（H18年まで）
- ・鯉一本釣りやキビナゴの地引網漁
- ・昔は通学に片道2時間かかっていた

阿多地集落



出された主なキーワード

不安

- ・緊急時の電気が心配
- ・ラジオが入らず、TVは共同アンテナ
- ・土砂崩れで昔、道路が複数箇所寸断
- ・体調が悪くなった時、一人暮らしは不安

資源

- ・阿多地の海は魚貝類が豊富な一級地
- ・集落中心にあるディゴの大樹
- ・親戚を呼んでの豊年祭、ノロ神様を祀る祭事

思い出

- ・キビナゴの地引網漁（昭和35年迄）
- ・結び（サトウキビ・萱の葎き替え等）
- ・大干潮での集落全員参加の潮干狩